

学習や生活に関する改善プラン

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です。

本校は、全国学力・学習状況調査結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する改善プラン」を作成しました。本校の状況を知っていただいた上で、子どもたちの学習や生活習慣の改善に向けて支援していただければありがたいと思います。

なお、さらに詳細な結果については、調査対象の学年に配付することとしています。

【全国学力・学習状況調査結果の概要】

成果

令和3年度実施の学力・学習状況調査では、国語は全国平均を上回り、算数については全国平均と同等の正答率でした。特に国語では、「目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える」や、「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」等、思考力、判断力、表現力等について全国平均を上回る高い正答率でした。

本校では、学年団で情報共有しながら教材研究を行ったり、全職員が授業を公開して自己研鑽に励んだりし、授業改善に努めています。このことも結果に表れてきたものと思われま。また、算数では、データを活用する力の向上が見られます。これは、算数の授業に限らず、国語や社会等でも、複数の資料の中から必要な情報を選択し、自分で調べていく活動を多く取り入れてきた成果であると考えられます。

質問紙の調査結果から、「自分には、よいところがあると思いますか」や「学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思いますか」といった項目は肯定的な意見が全国平均を大きく上回っています。これは指導の重点である、「認め合い支え合う居場所づくりの取組」を学校全体で行っている成果であると考えられます。

課題と対応

算数では、「速さと道のりを基に、時間を求める式に表すこと」や「三角形の面積の求め方」の正答率が全国平均を下回り、課題があることが分かりました。授業の中で具体的な場面や図形の操作活動を多く取り入れる等、手立てや支援の工夫を講じていきたいと考えています。また、しっかりと反復練習を行い、知識及び技能の定着も図りたいと思います。

質問紙調査の結果からは、「授業の中で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用したか」や「学校で、コンピュータなどのICT機器を、友達と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用したか」という質問に対する回答を見ると、全国平均と比べて使用頻度が少ないことが分かりました。1人1台PCが配付されたことを良い機会として捉え、ICT機器を積極的に授業の中で活用していきたいと考えています。まずは、陵南タイム（朝学習）で、「すららドリル」を活用していくことから始めていきます。また、ICT機器を使うことで広がる授業の可能性についても校内で研修し、学校全体でICT機器を効果的に活用していきたいと思。います。

【保護者・学区の方へのお願い】

質問紙において、「コロナウイルス拡大で学校が休校していた期間中、計画的に学習できたか」という項目に対し、肯定的に答えた児童の割合は全国平均を大きく上回っています。ご家庭での声かけや学校全体で共通に実践している家庭学習（自主学習）の取組などが、児童の学習意欲を高めることにつながっていると考えられます。今後も家庭学習への意欲を持続したり、さらに高めたりしていけるように、学校と家庭・地域との連携をより一層図っていきたく思いますので、よろしくお願いいたします。

令和3年度学習や生活に関する改善プラン（岡山市学力アセス）

※本改善プランは、岡山市教育委員会の統一した様式です

本校は、岡山市学力アセスの調査結果をもとに授業等の改善を行うため、「学習や生活に関する改善プラン」を作成しました。本校の状況を知っていただいた上で、子どもたちの学習や生活習慣の改善に向けて支援していただければありがたいと思います。

【岡山市学力アセスの調査結果から】

成果

	教科・質問紙	成果
第4学年	国語	目的や必要に応じて書く力が付いてきている。
	社会	資料から必要な情報を読み取る力が付き、定着してきている。
	算数	基礎的な四則の計算ができています。
	理科	知識がしっかり身に付いていると、活用はよくできていた。
	学習状況	自分にはよいところがあると思ったり、先生はよいところを認めてくれると感じていたりしていると回答した児童の割合が高い。
第5学年	国語	漢字の間違いや、文章の終わりの書き方に気を付けて書く力がついてきている。
	社会	資料からの読み取る力は身に付いてきている。
	算数	四則や図形の用語など、基礎的、基本的な知識については定着傾向にある。
	理科	実際に見たものや実験したもの、考えたものの正答率が高かった。
	学習状況	自分にはよいところがあると思っていると回答した児童の割合が高い。

課題とその対応

	教科・質問紙	課題	対応
第4学年	国語	文章の内容を正しく読むことについての正答率が特に低い。	<p>国語科では、気持ちを問い続ける授業ばかりをするのではなく、話のつながりを意識しながら文章を読む指導を行う。</p> <p>社会科では、普段から沢山の資料を見る・触れるなどの時間を設け、資料の見方を身に付けさせる。</p> <p>算数科では、日常的に復習を行う。文章を読んで、必要に応じて絵や図、表に表しながら、解決に必要な手立てを考えるような授業プランで学習を進める。</p> <p>理科では、「なぜその実験をするのか」「結果の考察」を大切に、時間をかけて指導する。教師が条件を与えたり、既習内容等につながる発問をしたりする。</p> <p>学習状況では、メディアコントロール週間での取組を強化していくとともに、普段からメディアとの付き合い方について考えさせる。自主学習への興味・関心を高め、具体的な取り組み方を示すことで、より自主的に自主学習に取り組むことができるようにする。</p>
	社会	資料（図や表）がある場合、先にそちらに目が行き、聞かれてることに対して答えがずれている。	
	算数	たくさんの情報から必要な情報を選び、解決する力が伸びていない。	
	理科	基礎的な知識が弱かったり最後まで問題が解けていない。	
	学習状況	ゲームの時間が長く、家庭学習にかかる時間が短い。	
第5学年	国語	言葉（熟語）の構成についての正答率が特に低い。	<p>国語科では、言語の授業をする際、知識や技能のみを伝達するような授業ではなく、思考や判断などを促す指導に努める。</p> <p>社会科では、普段の授業から、資料から読み取ってすぐ分かる「事実」で終わるのではなく、その背景や思いに迫る「考え」を深める授業構成を意識して行う。また、複数の資料から解決につながる資料を自分で選んでまとめるという経験を授業の中で取り入れる。</p> <p>算数科では、分数の学習で数直線や図に表したり、図形の学習で実物を操作しながら学習を進めたりするなど、量感を育むことができるようにする。また、友達のを考え方を説明する時間を設ける等、多様な考えに触れられるようにする。</p> <p>理科では、児童の思考の流れを意識し、生活場面での疑問を実験等で意欲的に実証すること、知識・技能とを結び付け、生活場面につなげるようにする。</p> <p>学習状況では、メディアコントロール週間での取組を強化していくとともに、普段からメディアとの付き合い方について考えさせる。自主学習への興味・関心を高め、具体的な取り組み方を示すことで、より自主的に自主学習に取り組むことができるようにする。</p>
	社会	複数の資料から自分で選択して解く問題の正答率が低い。また、記述問題ももう少しだった。	
	算数	たくさんの情報から必要な情報を選び、解決する力が伸びていない。	
	理科	教科書の知識だけでは解けない問題、あまり繰り返し経験しない問題が難しく、長い問題文が適切に読み取れていない。	
	学習状況	ゲームの時間が長く、家庭学習にかかる時間が短い。	

【保護者・学区の方へのお願い】

本校としては、児童が日々の家庭学習に自主的に取り組み、学習するという習慣を身に付けさせていきたいと思えます。保護者の皆様には、ゲームなどメディアの時間の使い方をお子さんと話し合い、学習時間を生み出す工夫をしていただけたらと思えます。また、お子さんが家庭で自主的に学習できるよう、声かけや環境づくりにご協力をお願いします。